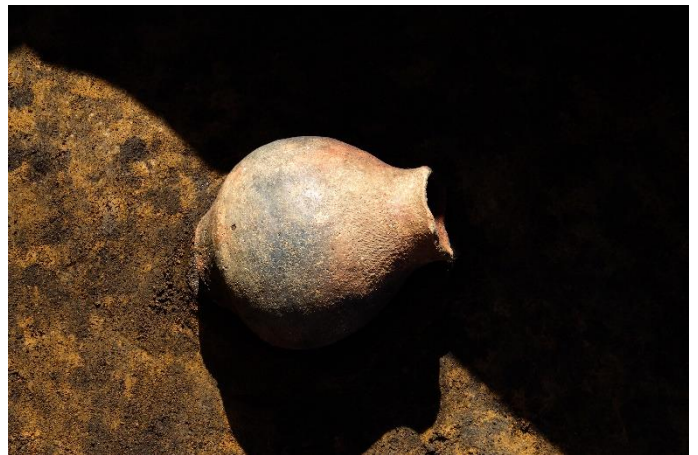


観音前遺跡 第54地点

遺跡名	観音前遺跡
よみがな	かんのんまえいせき
調査地点	第54地点
主な時代	弥生時代後期（約1800年前）、平安時代（約1200年前）
調査地	富士見市大字水子1861番1、1861番3
調査面積	1221 m ²
調査期間	令和2年2月12日～3月11日
調査内容	<p>【確認された主な遺構】 弥生時代後期の竪穴住居跡5軒、平安時代の竪穴住居跡2軒</p> <p>【出土した主な遺物】 弥生時代後期の台付甕、壺、平安時代の須恵器坏</p> <p>【概要】</p> <p>観音前遺跡は、新河岸川と柳瀬川の合流地点に近い台地縁辺部に位置し、荒川低地と柳瀬川により開析された谷津に張り出すように延びた台地先端部に立地しています。</p> <p>本地点の調査では弥生時代後期の竪穴住居跡5軒がまとまって確認され、当遺跡北西部に弥生時代後期の集落が展開することが明らかとなりました。5軒のうちの2軒は隣接し、住居跡の形状や規模が類似する点が見受けられることから、その関連性が注目されます。また、平安時代の竪穴住居跡2軒のうちの1軒には、煮炊きを行ったカマドが二つ確認され、カマド内からは須恵器坏などの器が廃棄された状態で出土しています。</p>



弥生時代後期の竪穴住居跡完掘状況



出土した弥生時代の壺



平安時代の竪穴住居跡完掘状況



本調査終了状況